

カトリック仙台司教区

東日本大震災救援・復興活動ニュースレター

発行人：平賀徹夫 編集：小松史朗
〒980-0014 仙台市青葉区本町1-2-12
カトリック仙台司教区事務局
Tel.022-222-7371 Fax022-222-7378
1) 義援金振替口座：02260-9-2305
名義：カトリック仙台司教区本部事務局
2) 支援金振替口座：00170-5-95979
名義：カリタスジャパン

今回も前回から引き続いて、他管区、他教区の取り組みです。東京管区の取り組みとしてCTVC(東京教区ボランティアセンター)と長崎管区からの司牧応援司祭で岩手県の久慈教会に派遣されている、伊東成晃神父(福岡教区)の奮闘ぶりをお伝えいたします。

仮設住宅訪問記

久慈教会 伊東成晃神父

寄り添う心で——CTVC活動記録

CTVC 漆原比呂志

7月より、宮城県南部と福島県への支援を東京教会管区が担当することになり、幸田和生司教様(東京教会管区担当)はじめCTVC(カトリック東京ボランティアセンター)の視察チームが福島県各地を訪問しました。そこで、避難所に居る方々に支援活動をしている教会のグループとの嬉しい出会いがありました。



仮設の集会所での傾聴

松木町教会では、教会の茶道クラブのメンバーが中心となり「ふれあい茶の湯」というプログラムを企画、現在は仮設住宅で避難されている方々に季節のお茶菓子とお抹茶を提供し、ほっと一息くつろぐ、楽しい時間を共に過ごしています。このプログラムに東京からのボランティア派遣や物資の支援で協力しています。



集会所の方々と！

ボランティア派遣は「ボラパック」という形式で、1~3泊程度の期間、数名で松木町教会の方々の活動に参加し、茶の湯などのイベント、炊き出しの実施などを行っています。



炊き出しを仮設へデリバリー

行政、他団体からの援助の届きにくい福島市内・宮代仮設住宅での炊き出しでは、東京近郊の小教区や修道会などがグループで福島の食材を使って食事を作り温かくて心のこもった食事を囲み、和やかな時間を過ごしています。

「仮設住宅から皆様が笑顔で故郷に戻られるまで、最後のお一人まで関わらせてください。」ふれあい茶の湯のリーダーが仮設住宅の自治会長さんに伝えた言葉です。

ふるさと福島への想いがあるからこそ分かり合えること、分かち合えることがある。すぐ近くに支え合える仲間がいること。それがどんなに大きな励みになっているかと感じます。寄り添う心を示すこと。その中に神様が働かれているのだと思います。

—キリストの生き方にならい、キリストと共に歩む—

CTVCでは、このような働きと東京の支援者をつなぎ、避難されている方々、地域のボランティアの方々と共に歩ませていただきたいと思います。

久慈から車で15分ぐらいのところに野田村がある。久慈市はあまり津波の被害がなかったが、この野田村は大変な被害が出ている。



被災地の北の端久慈教会

久慈教会信徒のOさんも津波によって家を失われた方の一人だ。現在は中学校のグラウンドに建てられた仮設住宅に、ご兄弟のご家族と共に生活されている。

私が初めて訪問させていただいたのは、8月でした。私が驚いたのは、その簡素さでした。テレビのニュースなどで見聞きはしていましたが、実際に見て、入ってみて驚きました。いくら急を要したとは言え、もう少し気の利いた建て方があったのではと思わずにはいられません。天井は低く、部屋は殺風景な板壁、板張り、庭があるわけでもなく、4戸程がつながった長屋状態だ。とてもストレスがたまるだろうと思ってしまった。



野田村の仮設住宅

被災されて何もかも失われた方々をこんなところに住ませるなんてと、怒りと悲しみを感じた。しかも2年後には、また出ていかねばならないことになっている。人間にとって、居場所、住み家が定まらないというのは、とても

不安でたまらないはずだ。

こんな私の思いをよそに、当のOさんご一家は、明るく元気に過ごされている。じっと、うなだれていても仕方ないので、毎日、お友達のところへ出かけては、麻雀や運動などをして楽しまれている。お友達との絆がとてもうれしく楽しいそうだ。毎日何かすることがあるというのは、とても大事なことなのかもしれない。

冬が近づく昨今、これからのボランティアは、このような被災者の方々に、毎日何かイベントを提供するといったことが必要かもしれない。子どもたちは毎日学校があり、やることあるが、仕事を失った方、お年寄りには毎日行くところがあるわけじゃない。一日中家の中に閉じこもっていたら、精神的にもよくないだろう。だからボランティア活動のひとつとして、毎日何か連れ出すイベントを提供できたらすばらしいと思う。みんなで映画、みんなでパチンコ等々何でもいい。旅芸人のような小屋が立つというのもいいかもしれない。誰一人として孤立させない、孤独にさせないというのが、とても重要な気がする。